

## 中国人日本語学習者のメタフォリカル・コンピテン スの発達と養成に関する考察

鐘, 勇

<https://doi.org/10.15017/1398295>

---

出版情報 : Kyushu University, 2013, 博士 (比較社会文化), 課程博士  
バージョン :  
権利関係 : Fulltext available.



## 要 旨

本論文は、中国の日本語教育におけるメタフォリカル・コンピテンス (MC) 研究及び応用認知言語学研究を推進するため、中国人日本語学習者の MC の発達及びその養成について考察したものであり、各章の概要は以下のとおりである。

第1章序論では、本研究の背景、目的と意義について述べるとともに、研究の全体的な構成を紹介している。第2章では、概念メタファー理論、応用認知言語学及び外国語学習者の MC の発達や養成などに関する先行研究を概観し、それを踏まえて本研究の3つの課題を示した。課題1：中国人日本語学習者の MC 発達の現状はどうなっているのか。課題2：中国人日本語学習者のメタファー表現理解に影響する要因は何か、学習者のメタファー表現理解力はどのように養成するのか。課題3：中国人日本語学習者の総合的な MC はどのように養成するのか。

第3章と第4章では、それぞれ MC の構成要素と概念的流暢性の2つの視点に基づいて課題1に取り組んだ。具体的には、第3章において、メタファー表現に関する MC テストを用いて日本語を専攻とする上級生の MC 発達の現状について調査し主な結果として次の3点がわかった。(1)上級生の理解力は産出力よりやや高いが、識別力、理解力と産出力のいずれも十分に発達していない。(2)識別力と理解力に比べ、上級生の産出力の発達において比較的個人差が大きい、識別力、理解力と産出力のいずれの発達程度においても性差は見られない。(3)理解力と産出力の間に正の相関が存在している。第4章では、中国人日本語学習者と日本語母語話者による作文データの中のメタファー密度や誤用例について分析し、学習者の MC 発達の実態について調査した。その結果、(1)中国人日本語学習者の MC、特に日本語独特のメタファー的概念体系に関わる J-MC は学習歴が上がっても十分に発達しないこと、(2)母語知識は MC 発達に功罪両面があることなどが明らかになった。

第5章と第6章では、課題2の解決を試みた。具体的には、第5章では、中国人日本語学習者を対象に独自のメタファー表現理解テストを実施し、母語とメタファー基盤に関わる概念・言語の知識や認知様式の知識と日本語メタファー表現の理解との関連性について調べた。主な結論として次の2点が得られた。(1)母語に基づく概念・言語の知識とメタファー基盤に関わる認知様式の知識の両方は日本語メタファー表現の理解に多くの影響を及ぼし、特に概念・言語の知識のほうが非常に影響力が強い。(2)日中両言語間で言語的に非共有の日本語メタファー表現と、隠喩基盤のメタファーに基づく日本語メタファー表現が比較的理解されにくい。また、第6章では、授業実践例に基づき、従来の暗記を中心とした指導法に比べ、概念メタファー理論と用法基盤モデルからの知見を生かした応用認知言語学的な指導法が中国人日本語学習者のメタファー表現理解力の養成に有効かどうか考察し、認知法が有効であり、かつ、その効果が持続的であることなどが分かった。

第7章では、課題3に取り組み、中国人日本語学習者の総合的な MC 養成に向けての基礎的な問題について検討を行った。暫定的な結論としては、次の5点となる。(1)日本語教育においては、学習者の MC は言語能力やコミュニケーション能力と同等な重要性を持つ。(2)中国人日本語学習者の MC 養成の導入時期は初級コースの終わりの頃が適している。(3)概念メタファーの導入順序の一案として、その基本義が先に学習過程に現れる単語に関わるメタファー、日中両言語間で共有のメタファー、及び複雑なメタファー・システムの下位の具体的なメタファーを優先的に導入することが考えられる。(4)MC 養成のプロセスは「気付き」、「理解力養成と付随的な識別力養成」、「産出力養成と付随的な識別力養成」、「創造力養成」の4段階に分けられる。(5)MC 養成のための日本語教材作りには、既存の英語教育関連の教材が有益な参考となる。

第8章結論では、本研究の成果を総括し、今後の課題として(1)概念メタファーに関する日中対照研究、(2)日本語学習者のメタファー表現産出力の養成における考察、(3)MC 養成のための日本語教材作り、などを挙げている。